

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている			
	やや良く なっている	商店街（代表 者）	来客数の動き	・例年と比べて雪が根雪になるのが早かったため、防寒衣料の動きが活発化しており、中には前年比で2～3割伸びている店もある。逆に観光客はダイヤの乱れなどが影響して前年をやや下回っている。
		商店街（代表 者）	それ以外	・気温が低いことから、防寒衣料の売れ行きが好調である。また気温の低さは全国的なものであることから北海道以外の店舗でも防寒衣料は順調に売れているようだ。
		商店街（代表 者）	単価の動き	・年末なので商品は多少売れている。全般的にムードとしては良くなっている。
		一般小売店〔土 産〕（店員）	販売量の動き	・販売量が多くなっていることから、景気の上向きが肌で感じられる。1人当たりの買物点数が増えていることに加えて、客単価も上昇しており、経済的、心理的にも景気が上向きになりつつあることが感じられる。
		百貨店（売場主 任）	単価の動き	・ボーナス支給後の週末に、カシミアコートや有名ブランドの高額品がよく売れていた。
		百貨店（販売促 進担当）	お客様の様子	・クリスマス商戦において、より間際に購買するという傾向が強まっている中、中旬からクリスマスイヴにかけて、海外のスーパーブランドなど的高額商品が力強く動いた。クリスマスギフトあるいは自分へのごほうびといった自家需要が目的であり、目的を伴った購買については、財布のひもが緩んでいる。
		百貨店（役員）	単価の動き	・12月に入ってギフト商品、特に海外の有名ブランド商品やファー付のジャケット・コートといった単価の高い商品が売れ、15%以上の売上増加という数字が現れている。
		スーパー（店 長）	来客数の動き	・昨年の12月は衣料品が不振であったが、今年の夏期以来、景気回復の指標となる紳士服・紳士用品が前年比で2けたの伸びを維持している。部門別の売上をみると、衣料品が前年比109%、住居用品が前年比100%、食品が前年比97%となっているほか、テナントが入居している専門店が前年比93%となっている。北海道地区全体では他店との競合状態も影響して、前年比98%と前年を下回っているものの、札幌地区に限れば前年比101%と前年並みの売上を保っている。
		コンビニ（エリ ア担当）	単価の動き	・単価の高い商品の動きが良くなってきている。
		衣料品専門店 （店員）	お客様の様子	・特に30～40代で購買意欲のある客が増えてきている。
		家電量販店（店 員）	販売量の動き	・12月商戦ということで全体的に商品が売れている。ただし売れている商品は、高額商品とすそ物品とに二分化されており、売上は前年実績をやっと達成できたという状況である。
		家電量販店（地 区統括部長）	販売量の動き	・客単価が前年比126.7%と上昇している。
		乗用車販売店 （営業担当）	販売量の動き	・販売実績が前年を上回るようになった。
		観光型ホテル （経営者）	来客数の動き	・一般募集の団体客および外国客が好調であるなど、道外からのツアー客が順調に増加している。ただし地元客および個人客は伸び悩んでいる。
	観光型ホテル （スタッフ）	販売量の動き	・宿泊人数が増加するとともに単価も上昇しており、底を脱した気配がうかがえる。	
	タクシー運転手	お客様の様子	・客からの注文の数が若干増えている。	
	観光名所（役 員）	販売量の動き	・11月まで、ロープウェイの輸送人員は前年比を下回っていたが、12月は回復の兆しが見られる。	
変わらない	商店街（代表 者）	単価の動き	・ここ数か月、売上が横ばい傾向にある。客は価格に対して敏感である。	
	商店街（代表 者）	お客様の様子	・依然として購買動向は慎重であるが、ボーナスが出たこともあり、季節商品の売上がやや増加した。	

	スーパー（店長）	競争相手の様子	・競合店の影響を受けている店舗が5店舗あるものの、既存店全体としてはますますの状況である。
	スーパー（店長）	販売量の動き	・12月の売上は前月比で10%ほど増加しているが、前年比でみるとほぼ前年並みである。天候不順による落ち込み分を最後までばん回できなかった。
	コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・スーパーマーケットのチラシなど、競合店の販促活動の回数がかなり増加しており、売上はかなり厳しい状況にある。
	家電量販店（店長）	販売量の動き	・来客数が前月より減少しており、客単価も低下している。
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・毎年、12月は厳しいが、特に今年は販売台数の伸びもなく、一層厳しい状況にある。
	住関連専門店（従業員）	販売量の動き	・年末商品の動きが悪く、全体としては変わらない。
	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・来客数は前年並みであったが、12月のメイン商品となるクリスマスケーキやおせち等の売行きが悪く、一般購買層の他店への流出や低価格商品への移行がみられた。
	高級レストラン（スタッフ）	単価の動き	・売上、客数とも前年比を下回ったものの、客単価が前年比で3%上昇した。ただし前々年とほぼ同じ水準の単価であり、当地の景気はまだ厳しいままである。客層は観光客が主であるが、ランチにおける観光客の比率が前年比で2ポイント上昇している。
	観光型ホテル（経営者）	単価の動き	・先月から単価をより高くしようと営業方針を変えている。来客数は減ったが、単価が上昇したため、売上は前年と変わらない。
	タクシー運転手	お客様の様子	・年末の繁忙期を迎えたが、すすきの等の繁華街において、タクシーが全く拾えなくなるような状況は発生しなかった。不況感からか、客は極力出控えているようだ。
	タクシー運転手	販売量の動き	・1年のうちで最大の繁忙期だが、忘年会の切り上げ時間が早く、送り迎えについても家族の自家用車によるものが目立ち、タクシーの利用客は少なかった。
	美容室（経営者）	来客数の動き	・最近では客の来店周期が固定化してきており、客の動きに変化がみられない。
	設計事務所（職員）	お客様の様子	・予算執行時期の関係からか公共工事の見積依頼が少なく、民間工事の計画依頼も少ない。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・積雪が多かったことから、客の様子がますます悪くなっている。
	スーパー（店長）	販売量の動き	・今年は特に12月商戦を強化して、10~20%オフのような企画を連日実施しているが、思うような効果が得られず、売上は前年比で3%程度しか増加していない。逆に客単価が低下する状況となっており、客の買い控えが強く感じられる。
	スーパー（企画担当）	お客様の様子	・お歳暮ギフトやクリスマス商品のようにし好性の強い商品の動きはやや良くなってきているが、日常の食品については、野菜や米の単価低下に加えて、一人当たりの買上点数もなかなか回復せず、客単価は低下の一途をたどっている。
	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・今年は雪が降るのが遅かったため、冬物の衣料品や靴の出足が悪く、それほど良くなかった。
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・販売車種は新型効果のあったコンパクトカーが主となっており、法人の需要も伸びないことから、販売台数、売上とも前年からの落ち込みが大きい。
	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・今月は前半の出足が悪く、後半に入り盛り返した。数字だけを見ると、売上は前年比100%であったが、顧客の利用割合が前年の45%となり、宣伝広告費をかけたことを考えると、やや悪いといえる。ランチの売上は背広姿の男性客が激減して、前年から30%減少した。ディナーは前年並みとなったが、フリーでの来客が減少した。クリスマスディナーはプレゼントを抱えた20~30代のカップルがほとんどで、以前のように家族客やグループ客は来店しなくなった。個室の利用は前年を超えた。
	一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・前年の12月の売上には全然到達していない状態である。天候が悪いことが原因としてあり、近辺のショッピングモールも集客が良くなかったと聞いている。

		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・旅行申込が間際化しており、先行販売量は前年比で15～20%の減少となっている。道内の旅行需要でしているが、財布のひもは固く、特に夫婦での旅行が減少している。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・年末の動きが悪く、単価も上がらない。先行きに不安を感じているのか、手元の現金や資産を動かしたくないという様子がうかがえる。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・来客数が減っている。天候不順等で航空機の欠航が多かったことや、機材の故障が多かったことが影響している。
		タクシー運転手	来客数の動き	・12月は忘年会等があり、一年間で最もタクシーの利用の多い月であるが、前半は雪がなかったことで、タクシーの利用客が例年より大きく減った。一方、中旬以降は雪の多い日が続いたが、市内の除雪体制が悪いせいか、道路が大渋滞となったことで、売上が大きく減少した。
	悪くなっている	スナック（経営者）	来客数の動き	・今年は忘年会もあまり入らず、前年を下回ることとなった。
企業 動向 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	輸送業（支店長）	取引先の様子	・鉄骨、コンクリート製品など、新規案件の引き合いが止まっていた建築関係で、関東の好景気の影響からここに来て順次引き合いが出てきた。ただし引き合いの大半は本州物件で、道内物件はまだ少ないのが実情である。
		通信業（営業担当）	取引先の様子	・業績が右肩上がりになってきたとの話が増えてきた。ただし業種によって景況感の現れ方に差異が生じている。
		その他企業〔コンベンション担当〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・レストランの客単価が上昇し、売上が10%程度増えている。クリスマス期間の売上も同様である。宿泊については、アジアを始めとした海外客の動きが相変わらず良く、さらに個人客の動きも良くなっている。
変わらない		食料品製造業（団体役員）	受注量や販売量の動き	・全国的に記録的な寒波と大雪の影響で、生鮮食料品の高騰や輸送の遅れ等が生じたことから、受注量、販売量とも前年を10%程度下回った。また製品の販売単価や消費者の購入単価が毎年低下しており、売上を維持することに苦労している企業が多くなっている。
		輸送業（経営者）	取引先の様子	・運輸関係では、依然として原油価格の高騰の影響が出ている。
		金融業（企画担当）	それ以外	・設備資金は増加しているが、一般企業向けは伸び悩んでいる。住宅着工については、札幌市が建築物の高さ制限する方針を打ち出したことから、制限導入前の駆け込み需要などで前年を上回って推移している。個人消費は11月以降、気温が低めに推移したこともあり、冬物商品が売れているものの、灯油の値上がりマイナスイメージとなっている。観光業界は知床効果などで来道客が増加しているが、地域に偏りがある。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	取引先の様子	・受注価格に改善の兆しがみられない。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	取引先の様子	・年間を通じて設備投資の時期ではないが、それにしては長期的な設備投資計画の話が聞こえてこない。
		その他非製造業〔機械卸売〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・受注量、販売量ともに停滞したままで推移しており、景気は下向きとはなっていないものの、上昇とは言い難い状況である。
		輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・原油価格の高騰に伴う船社の運賃値上げにより、更に厳しい環境となり、引受料金との逆ざや現象が多くなってきた。
	悪くなっている	-	-	-
雇用 関連	良くなっている	-	-	-

やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・人材派遣の要望ではあるものの、販売系、営業系、事務系、医療系ともオーダーが増加している。企業における中途採用意欲も継続して強い。しかしながら選考基準は依然として高く、なかなかマッチングまでに至っていない。ただし人件費や経費の削減傾向から、形態はどうであれ、企業活動を行ううえで人材の活用が増加傾向にあり、業績が上向きになっている様子がうかがえる。
	学校〔大学〕（就職担当）	雇用形態の様子	・3か月前よりは若干良くなっているが、右肩上がりだった曲線がやや停滞気味となっている。雇用環境は良くなってきているが、企業の採用を厳選する傾向に変わりはなく、採用基準が厳しいことから、採用試験を受けても不合格になる学生が多い。
変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	求職者数の動き	・求人広告へのアクセス数が若干だが増加傾向にある。季節要因を考慮しても厳しい雇用状況がうかがえる。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・土建業の倒産、廃業が相次いでおり、深刻さが増している。良いところと悪いところの格差がより大きくなっている。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数は増加傾向にあるものの、地元就労の求人や直接雇用型の求人はそれほど増えていない。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・就労地が道外の大量請負求人があったため、新規求人数は前年比で約15%の増加となっているが、基幹産業である食料品製造業の求人は大幅な減少となっている。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年比で4.5%と引き続き増加となった。産業別で見ると、製造業、運輸業、医療福祉業、サービス業が増加し、建設業、飲食店、宿泊業が減少となった。なお4月からの累計では、前年比15.5%の増加となっている。
やや悪くなっている	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・10月を期に地元求人数が低迷している。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数が前年に比べて21%減少した。大幅な減少は2か月連続である。
悪くなっている	-	-	-